

最期は 自宅で暮らす という選択。

～在宅医療の現場から～

曾川 眞里子さん

曾川 東洋史さん

曾川 きくこさん

(107歳・富士見ニュータウン在住
2018年から在宅医療を利用中)

あなたは「最期のとき」をどこで迎えたいですか？ 住み慣れた我が家で医療・介護を受けながら暮らす「在宅医療」という選択をする方が増えています。

今回は、実際に市内で在宅医療を受けている方のご家族と、連携して患者さんを支える専門家の方に、現場の声をお聞きしました。

一番よかったことは「安心感」

(東洋史さん、眞里子さん)

近年は高齢で出歩くのが難しくなり、通院が困難になってきました。具合が悪くなったとき、だれかに診てもらえないと困る。そんなとき、この「在宅医療」という方法があることを知り、担当のケアマネジャーさんに相談したことがきっかけです。

在宅医療にして一番よかったことは、「安心感」ですね。自宅まで先生が来てくれて、自分が介護をされていて気づいたことや、具合が悪いところを丁寧に診察して、その場で薬も出してくれます。看護師さんも一緒に来て、頭からつま先まで全身を細かく診てくれるので、本当に安心できます。

救急車を呼んでも、なかなか搬送先が決まらないなんて話をよく聞きますが、もし夜に急に具合が悪くなくても、連絡すれば先生が診てくれるサービスも利用しています。昼夜関係なく来てくれるっていうのは、家族にとっては本当にありがたいですね。

自分たちで介護しているので、風呂や排泄の介助など手のかかる部分もちろんありますが、お泊りサービスなどもあるので、葬儀など急な用事の際に利用しています。介護する側がしっかり休めるからこそ、前向きにケアができると思います。

施設やサービスを使ったときは、その様子を先生や看護師さんにも情報共有してくれるので、いろいろな先生にいつも見守られている感じがします。今度、おむつ交換のヘルパーさんをお願いしてみようと思っています。

自宅には私の孫がしょっちゅう遊びに来るので、本人もいい刺激になっているようです。施設だと今は面会もなかなかできないようですし。本人も「在宅医療を受けてよかったな」って言い出しそうですね(笑)。

在宅医療に興味がある方や、希望しているけど躊躇している方は、まずは一度相談してみると良いのかなと思います。ご本人もそうですし、ご家族も在宅医療にしてよかったと思うのではないのでしょうか。



1 2 3 訪問医・看護師による診察の様子。問診のほか、脈拍・血圧測定、爪の状態確認など、外来診療と同等の診察をし、必要があればその場で薬の処方もする。

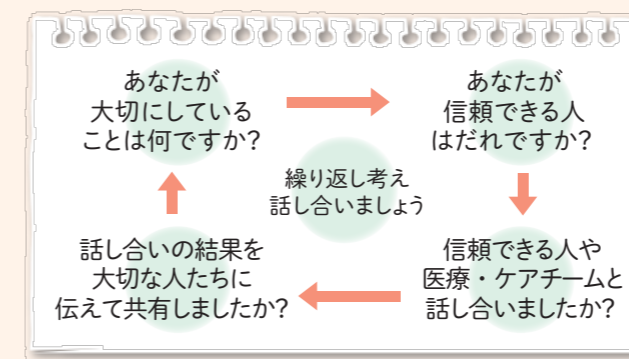
4 訪問看護師が持ち歩くバッグとその中身

5 6 きくこさんの自宅での介護の様子



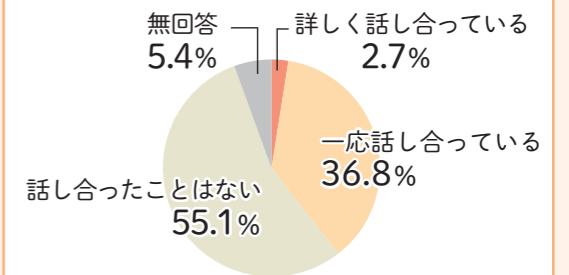
自分らしい最期 を前もって考える「人生会議」

だれでも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、繰り返し話し合い、周囲の信頼する人たちと共有する「人生会議 (ACP: アドバンス・ケア・プランニング)」をしておくことが重要です。



人生会議を実際に行っている人は意外と少ない現状があります

あなたの死が近い場合に受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養について、ご家族等や医療介護関係者とのくらし話し合ったことがありますか？



出典：平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査 (厚生労働省)